

カリフラワー



——永田 茂穂

野菜編

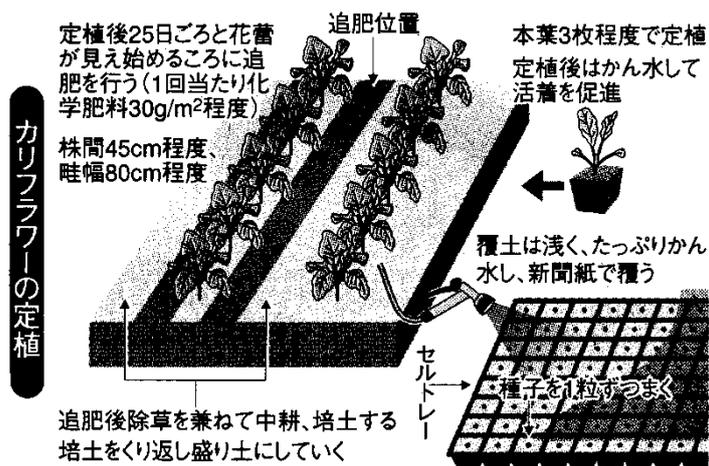
収穫遅れると花蕾黄変

アブラナ科の1，2年生草本です。原産地は地中海東部沿岸で、ハナヤサイ（花椰菜）とも呼ばれ、純白の大きな塊は蕾が集まったものです。キャベツの仲間、ブロッコリーの花蕾が突然変異したものです。

日本へは明治初期に導入されましたが、消費が増えた切は昭和30年代以降です。生産されているカリフラワーの花蕾の色は白が中心ですが、最近はオレンジや紫、黄緑色の品種も見られます。食べるとほのかな甘みがあります。また、ビタミンC、B1、B2を多く含みます。花蕾の形と淡泊な味をいかして、サラダ、シチュー、グラタンなどに利用されています。

生育適温は20度前後、発芽適温は15～20度で、冷涼な気候を好みます。ここでは、夏まきの秋冬どりを紹介します。

播種期は、8月です。市販の育苗用セルトレー（128穴）に育苗用培土を詰め、種子を一粒



ずつまきます。覆土は浅くします。たっぷりかん水して新聞紙で覆い、涼しい所で育苗します。発芽までは乾燥しないように注意します。発芽したら新聞紙を取り除きます。また、かん水を控えめに、徒長を防ぎます。育苗期間は25日程度で、本葉3枚程度になったら定植適期です。

排水のよいほ場を選び、定植までに本ほの準備をします。1平方メートルにたい肥3kg、苦土石灰120g、化

学肥料100g（三要素15%）程度を施し、耕うんします。

栽植密度はうね幅80cm、株間45cm程度です。苗は定植1時間ほど前にかん水し、根鉢に水分を十分持たせておきます。定植後は、株元に十分にかん水し、活着を促進します。晴天が続くときは、適宜かん水します。定植25日後と花蕾が見え始めるころに中耕、培土を兼ねて追肥（化学肥料30g/回）します。また、花蕾の日焼けと寒害を防止するために、花蕾が8cm程度に肥大したら外葉をテープなどで結束します。

花蕾が12～15cmに肥大し、周辺部が盛り上がり表面に凹凸が無くなったころが収穫の適期です。収穫が遅れると花蕾にすき間が生じたり黄変します。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部長）

平成22年（2010年）8月12日／南日本新聞